

会議名	令和6年度 第3回愛荘町健康づくり協議会 会議録
開催日時	令和6年10月16日(水) 13時15分から14時45分まで
開催場所	愛荘町役場 庁舎別館2階 多目的室
出席者	<p>【委員】9人</p> <p>矢部隆宏 曾我幸史 西村ふき子 上林如子 小川俊子 平野雅穂 稲岡智加 三浦寛二 小財敬子</p>
欠席者	<p>【委員】</p> <p>宇野久七郎 中村恭子 村西範彦</p>
事務局	木村政策監(兼健康推進課長)・堀参事・北村課長補佐 小林課長補佐・畑
傍聴者の数	0人
議題	健康あいしょう21(第5期)計画について
審議内容	<p>○基本目標3 課題・取り組みの検討</p> <p>○計画の成果指標について</p>
問い合わせ先	健康推進課 担当 畑 あやの 連絡先 0749-42-4887

令和6年度 第3回 愛荘町健康づくり協議会会議録

日時：令和6年10月16日（水）午後1時15分～

場所：愛荘町役場 庁舎別館2階 多目的室

（開 会）

○あいさつ

1. 報告事項

(1) 第2回健康づくり協議会のまとめ

【資料1】

基本理念・基本目標1・2

2. 協議事項

(1) 基本目標3 課題・取り組みの検討

【資料2】

検討分野：基本目標3

① つながることで健康になれる地域コミュニティづくり

② 暮らしの中で健康になれる地域環境づくり

(2) 計画の成果指標について

3. その他

（閉 会）

事務局：定刻となった。ただいまから、令和6年度第3回愛荘町健康づくり協議会を開催する。

開会にあたり協議会会長矢部様よりご挨拶をお願いします。

矢部会長：今回が第3回目であり、本日の狙いとして、まず健康あいしょう21計画（第5期）の基本目標3についての検討、つぎに成果指標の検討することとなっている。今回も活発な討議をお願いしたい。一人一人に意見を頂戴したいのでよろしくお願いする。

木村政策監：お忙しい中、第3回愛荘町健康づくり協議会にお集まりいただきありがとうございます。今年度は第5期計画について協議をお願いしている。前回は目指す姿や基本理念を決定する会議にさせていただいた。第4期の理念を引き継ぐ形で、様々な意味で住民の皆様への暮らしの健康やQOLの向上を目指し、計画策定をしていただくように協議したと記憶している。会長より本日の課題について説明いただいたが、忌憚のないご意見を聞きつつ良い計画にしていきたいのでよろしくお願いしたい。

事務局：中村、村西委員欠席。資料の確認をした。

事務局：要綱第8条第4項の規定により、これから先は矢部会長に議事の進行をお願いする。

矢部会長：それでは、次第に従って進める。1. 報告事項(1) 第2回健康づくり協議会のまとめについて、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料1、資料2（基本目標1、2の変更箇所）について説明をした。

矢部会長：ただいまの説明について、質問、ご意見はないか。

平野委員：かなり反映をしていただいてありがとう。用語説明が下に書いており、読みやすくなった。P48にプレコンセプションケアがあるが、これより前のページに説明はあるか。

事務局：前回の会議も指摘されていたが、追加できていなかった。修正をする。

矢部会長：難しい言葉はその都度、ページの下に説明をいれるのか。

事務局：初出のところに入れている。その都度のほうがいいか。

平野委員：索引はつけるのか。

事務局：該当頁の下につけるという話があった。スペースの兼ね合いもある。

平野委員：何回も出てくるなら、索引が書いているページ数を入れれば、コンパクトにできる。

曾我委員：P25のところの「(5) 歯・口腔の健康」の表の一番下に「歯周病のない（歯と口の症状がない）人の割合の増加」とあるが、症状がなかったら歯周病ではないと言えないので、「歯周病がない」と言わないほうがいい。単に「歯と口の症状がない人の割合」にとどめていたほうがいい。

平野委員：これはアンケートの結果か。それとも歯科受診の健診結果か。

事務局：アンケート結果である。

平野委員：それでは「症状がない」ということが正しい。

矢部会長：続いて、2. 協議事項(1)基本目標3課題・取り組みの検討について事務局より説明をお願いします。

事務局：資料2基本目標3について説明をした。

矢部会長：ただ今の説明について、何かご意見等ないか。これまでの話し全般でも構わないので一人ずつ意見をいただく。

西村副会長：健康推進員としてはコロナ禍ではほとんど活動できず、昨年からは地域やサロン、学校、企業に出向いている。健康推進員の会員数が減少傾向、高齢化も進んでいる。名前だけで実際活動できるのが30名中20名いるかどうか。先日、防災訓練でも100人位を対象に、びんてまり体操を実施した。もう少し啓発が必要だが、要請があったところには出向いて出前講座を実施している。愛知高校でも去年初めて食育講座を実施し、生徒に朝食や野菜の大切さを伝えた。今年も12月に実施する予定しており、食育にプラスして睡眠とスマホのことも入れていこうと思っている。サロンでも食事は口からなので今年初めてオーラルフレイルについてもしていくつもりである。

矢部会長：オーラルフレイルは最近聞いたが、業界では以前からあったのか。

曾我委員：最近ではなく、少し前からある。フレイルの前段階として気づきやすい部分である。むせなどのオーラルフレイルをほっておいたら大事なところに波及していく。

上林委員：基本目標3につながるの大切を書いているが、最近学校にボランティアがたくさん入っていて、家庭科でミシンを教えたり、読み聞かせをしたり、教師の手が足りないこともあり、いいつながりが生まれている。図書室でも一人常時いてくれるので、先生とは違う図書の先生と話すなど、保健室には行きづらいけど図書室に行けるということで子どもの居場所になっている。地域の図書館も誰でも入れる良いつながりの場になると見させていただいた。BIWA-TEKUのアプリについて教えてほしい。

小川委員：JAとしても健康ということで、地域の組合員宛てにいろいろな行事や取組をしている。P56のところに「推進主体との連携強化」に「民間企業や関係団体等の連携体制の構築に努め」とあるが、以前支店にいた時に、高齢者の方がカードを持っていて、皆さん講座などに参加するとハンコを押していた。今もそれをしているのか。

事務局：それがBIWA-TEKUに変わっており、いろいろなものに参加していただくとポイントがたまる。

事務局：コロナ禍で集まることが難しい中、個々のペースで健康増進を支えるものである。まずはアプリを取得していただき、歩いたり、スポーツ健康増進につながるイベントに参加することでポイントを集められ、ポイントは景品に換えることができる。高齢者でスマートフォンを持っている人が少ないが、デジタル化ということで持っている人にはアプリを入れていただき、日々の歩数を入力とかの意識づけをしていきたい。これは健康を自身で管理してもらいながら健康増進につなげていくアプリとなり、スタートから1年位たったが、町内の加入者400人を目標の中、現在は380人くらいで止まっている。これからもPRをして加入者を増やしていき、健康増進につなげる事業である。

小川委員：JAが登録しますと言って登録しないといけないのか。

事務局：ポイントを付与できるものは町が主催・共催しているものとなっている。まちのPRも兼ねてやっているもので、アプリ内で作成させていただいているウォークラリーコースで、野菜の郷をウォークラリーのポイントコースにした場合、野菜の郷のPRもできる。企業の一事業ではまちの共催ではないので、参加に対してのポイントの付与は難しい。ポイントラリーコースに協賛として入っていただき、PRをさせていただくことはでき、また各市町村がその企業にお願いして景品を集めたりしている。愛荘町としてやっているのは、健康増進のためにポイントコースを作成してポイントを付与に併せて、まちの活性化のためにポイントで交換できる景品を協賛している企業さんにまちの特産品を出してもらい、特産品のPRをしている。JAが景品を出していただき、協賛することは可能である。

小川委員：愛荘町に申請するのか。

事務局：よろしければ説明にうかがわせていただく。

三浦委員：健康推進課とコラボして5年ほどなり、毎月健康のテーマをいただき、関連図書を出したりしている。図書館は2館で12万人の利用がある。48ページの子どもの健康づくりのところで「スマートフォンの利用など、電子メディアとのかかわり方について周知・啓発」とあるが、図書館、教育委員会としても「減メディア、親読書」として取り組んでおり、ぜひ一緒に進めてゆきたい。

矢部会長：若者の読書離れといわれているが、最近はV字回復で読んでいる子が増えている。大人が読ませたいものは読まないが、若者が読みたいものは読んでいるという話もある。

三浦委員：子どもの読書離れについて、全国的には、近年それほど読書離れが進んでいないとする指摘がなされていることは承知している。愛荘町では、読書率は全国や県平均よりも低い状況が続いている。そのため、町内の小学校全部に図書指導員を配置し、読書

活動を推進しているが、本を読む子どもと読まない子どもの二極化が進んでいるようだ。また、愛荘町内の子どもたちの傾向として、スマホの利用時間が非常に長い。読む力を幼稚園、小学校のうちにつけておかないと、学校の試験で問題を読み取ることもできなくなる。電子機器に使われる人間ではなく、使う人間になるには、読書で培われる考える力が大事である。スマホの周知・啓発は重要なので教育委員会としても考えていきたい。

矢部会長：三重県の高校で学生が推し本を出して、校長も推し本を出したが、校長先生の推し本はあまり借りられなかったという話を聞いたことがある。世代で価値が違うのだと思う。

三浦委員：文章を読むことはある程度の訓練がいる。

小財委員：基本目標3の中で地域とのつながり、コミュニティづくりというところで、自分は子どもとかかわる機会が多いが、夏休みが明けた今の時期に、子どもがどのように夏休みを過ごしていたかを朝ごはんとの関連で話をした。最近、ラジオ体操もなくなりつつあって、参加したかを子どもたちに聞いたが手が上がらなかった。つながりの部分で、みんなで集まって早起きを習慣づけるのにラジオ体操のような取組はいいと思うが、難しいところもあるので、何かそれに代わるものがあればいいと思う。

曾我委員：歯科の関係では、住民さんと歯科医師会関わる場として愛荘 66 かまど祭りに参加しており、コロナ禍でしばらく途絶えていたが、今年度から復活することとなった。イベントや祭りなど、垣根が低く、気軽に相談してもらえるような場所があるといいと思う。

稲岡委員：P56 で「噛むCOME+10 (プラステン)」を引き続きしていただきうれしく思う。「健康になれる地域づくりの推進」としては幼稚園から小中学校までしているフッ化物洗口も重要なことであり、特定健診についても場を設けて環境を作ってもらっている。県の健康増進計画では地域づくりで受動喫煙のことも触れている。ここで書いてもらうものは分からないが、公共の庁舎を敷地内禁煙していることとかをアピールしてもよい。公民館などの禁煙対策など今の状況がわかるものがあればいいし、受動喫煙対策も環境づくりに含まれるのではと思う。

平野委員：健康あいしょう 21 計画の全体について、どこから計画なのかわかりづらい。P27 まではデータと今までの取組である。今回の計画が実際に説明されるのは P28 からで、細かい計画の本体は P32 からとなっている。なぜ分かりづらくなるかを考えると、第4章 施策の展開」というタイトルが悪いのではないか。第4章の基本目標1、2、3が計画そのものであるのに、それが分かるまでに時間がかかりすぎる。1つの案とし

て第4章は計画の本体だが、第3章の続きであるので、3章と4章を合算して、3章の続きにしてしまう。別の案としては第4章のタイトルを変更して、ここが本体とわかるようなタイトルにしてはどうだろうか。基本目標1、2は個人の人にしてもらうものだが、基本目標3は地域づくりということで環境づくりであり、個人の目標であればタバコを吸わないようにとか体重を維持しましょうとかいいやすいが、基本目標3のように地域づくりの目標ならプロセスが大事である。また、住民の人に参加するのが大事であるとか、プロセスを大事にしたいということが伝わるものもいい。この指標については柔軟に変更してもいいし、途中で見直してもよいと思う。指標にとられずにやれるほうがいいと思う。

事務局：地域の参加型について、滋賀県の健康寿命が長いのはボランティアをしたり、つながりがあることが要因と分析の結果が出ているので、そういうところを言っていたいと思う。P2の関連法令のところにも愛荘町地域福祉計画があるが、この計画に基づいて健康あいしょう21計画もある。地域福祉計画の中に人とのつながりなども書いており、その中で健康を切り口にして健康あいしょう21計画がある。今、言っていたような内容も地域福祉計画の中で作成している。健康を切り口としてということであれば、愛荘町が行っているフッ化物洗口だけでなく、道路整備でウォーキングコースを作ることも環境づくりになるので、それを話していくプロセスが大事だと思う。何らかの形で反映させていただきたい。

矢部会長：(2)計画の成果指標について事務局から説明をお願いします。

事務局：成果指標について説明をした。

矢部会長：今の説明は資料のどこにあたるのか。

事務局：P32以降のそれぞれのところについている指標についてである。

矢部会長：全体的にでもよいので、1人ずつご意見をいただきたい。

西村副会長：スマホについて、小中学校だけでなく、家でも使っているので、使いすぎ、触りすぎだと思う。今度、愛知高校に行くので、高校生がどれくらいから使いはじめているかなどを、私たちでも聞いてみようと思う。親が起きていると子どもが寝るのが遅くなるので、受動喫煙も含め、環境について我々も勉強していかないといけない。

矢部会長：最近では、小さい子がいれば、親は気にして外で吸っている人が多いと思う。

上林委員：学校としても健康について取り組んでいく時間が無いことが悩ましい。家庭でもでき

ている子とできていない子の二極化している。学校においても週1回のフッ化物洗口の時間がなくできないことがあり、次の日にずらしたりしながらと、かなり大変な中行っている。たくさんの課題を見ながらできるところからやっていきたいと感じた。

小川委員：健康づくりについてのいいことが書いてあるが、これをどこまで周知していけるのが疑問である。PRの仕方とか、数値をよくするための取組をどうするか課題である。

矢部会長：相当前からこの健康づくりに携わっているが基本理念も周知されていない。もっと周知させていただきたい。

小川委員：SNSとかを駆使する手もあるかもしれない。ただ農協でもインスタとかでPRをしているが、難しいと感じている。何かやっていることが他にもあるなら聞きたい。

三浦委員：参考までに聞きたいが目標値を定めるとするが、基準があるのか。

事務局：県でも計画があるので、そこに準じてやっていく。滋賀県の計画よりも愛荘町のほうが優れている場合は県よりも高い目標に設定している。自殺対策の計画でも自殺者ゼロにしろということもあったが、現実離れしているので、少しでも少なくという国の指標と比較して妥当な線を考えていただいた。

小財委員：目標値がどうするのかということを考えていた。現状を見据えながら考えていかないといけないと思った。

矢部会長：BMIで25以上が肥満となっているが、実際に長生きするのは25以上30未満の人のほうらしいので、25以上は肥満だからダメだと言っているのだからいいのだろうか。健康で長生きしている人はどれくらいの体重で、どれくらい睡眠しているのかまで分かっていないといけない。

稲岡委員：例えばたばこであれば子どもの時からという思いを持って作っている指標なので、思いが伝わってくる。やっていきながら、次回どうするとか、保健所も一緒に考えていければと思っている。

平野委員：どこの指標で悩んだのかを、いくつか教えていただきたい。

事務局：基本目標2のP49の中の男性の肥満とか女性のやせの問題がある。現状値に課題があるなら、指標として挙げていくとよいという意見をいただいていたが、それをここでどのように持っていったらいいのか。女性のやせに関してはP47の「胎児期・幼少期からの子どもの健康づくり」のところにも関連してくる。その辺りをどのように触れていき、指

標として挙げていっていいかを悩んだ。

平野委員：指標として挙げるかどうかは、過去の数字から見て悪くなっているなら挙げたほうがいい。

事務局：今回の計画を立てるときに二極化という課題が明確化してきた。今までは肥満と運動不足が中心の課題だったが、やせに対する取組が必要になってきている。県でプレコンセプションケアの事業をしていることも含めて、愛荘町でも今回の計画の中に入れていますが、それを具体的な指標にするとなかなか難しい。P48 の計画の具体的な施策でも書いているので、取組をしながら二極化がどういうふうに変わっていくかを見ていくのもありかもとは思っている。だが、まちとしての課題をしっかりと指標に基づいて評価したほうがいいのかとも思っている。その辺りが悩ましい。

平野委員：評価ができるなら入れたらいい。エビデンスがある健康被害につながるやせがあるなら、国が出しているものを指標として使えるのではないか。国はワクチン接種の100%を目指していない。集団免疫を達成できる95%でいいとしている。やせにもこのようなものがあれば使えばいいと思う。評価できない指標はまずいので、中間評価を見据えた評価指標がいいと思う。P39 のE B SMR、COPDも欄外に説明があったらよい。全体的な話で、どうやってPRしたらよいかということだが、ここに書くことで予算がとりやすく、住民の人にも健康あいしょう21計画に書いてあるから取り組まなければいけないと住民から言ってもらえる。これを根拠に施策を展開してもらえればベストだと思う。

矢部会長：こういうのを推進してくれる議員もいるのか。

事務局：健康に対して意識の高い人もいる。健康あいしょう21計画を立てるときにこのメンバーで集まれるのが推進の第一歩と思っている。健康推進員、商工会、JAなどから集まっていたらいい、今行っている取組やこれからの計画に基づいた取組をそれぞれの立場から意見をおっしゃっていただいている。4期から5期、5期から6期とまちの健康がどうなっているかを経年的にみていく意味でも、継続的に残していくべき指標もあるし、情勢の変化により新たに追加した指標もある。指標については、まちのほうでもう一度精査しながら現状にあった目標値を考えていくので、次の会議でも意見をいただければありがたい。愛荘町に住んでいるだけで健康になれるまちづくりとして、4期から「噛むCOME+10（プラステン）」を進めさせていただき、PRもしていただいているので、引き続き5期にも掲げさせていただこうと思っている。今、P55とP56で表記が違う。「噛むCOME+10（プラステン）」は作った我々は分かるが、住民の方に知ってもらうにはどちらの表記のほうがわかると思うか。皆さんの意見はどうか。

矢部会長：古いも若きも「噛むCOME+10（プラステン）」なのか。

事務局：そうである。

曾我委員：いいことだと思う。

事務局：住民に伝えるのにどっちのほうの方が分かりやすいか。

曾我委員：慣れてしまえばどちらでもいい。「噛むCOME+10（プラステン）」という言葉が出てくるが、メリットとか、内容をコラム的に書いてあるといい。

事務局：コラムのところに書くのはどうか。

曾我委員：分かりやすい感じで書かれているといいと思う。

西村副会長：11月に75歳以上のサロンに行くが、オーラルフレイルのことも触れるが、「噛むCOME+10（プラステン）」も言ったほうがいいのか。

曾我委員：とにかく咀嚼の回数を増やすことで、消化がよくなるなど健康につながる。

西村副会長：効果のことを言って、日ごろより10回多く噛むことへの意識づけか。

曾我委員：はじめは2、3回から初めて、徐々に増やせばいい。

西村副会長：そのようなことを言ったほうがいいのか。

曾我委員：そのほうがいい。そのファイルも健康推進課が多く持っていると思う。

矢部会長：それでは事務局に返します。

事務局：今回いただいた意見についても計画に反映する。3. その他について、次回の第4回会議の日程は11月22日でお願いしたい。時間は本日と同じ午後1時15分からとさせていただきます。場所も同じである。お忙しいと思うがご協力いただきたい。

事務局：長い会議の中、たくさんのご意見をいただき感謝する。指標についても、中間評価を見据えたものとなるように、事務局で協議して目標値を入れたものをお示ししたい。第3章と第4章の章立てについてもご意見をいただいたが、こちらも事務局で協議して次回お示しさせていただきたい。

以上